

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	佐野 智昭（6）	<p>1. 地域経済の活性化、雇用やまちの魅力創出などにつなげる余剰公共建築物の利活用について</p> <p>本市では、将来に過度の負担をかけることのないよう、公共施設の長寿命化や計画的な予防保全、総量削減等の手法により財政負担の軽減・平準化を図るとともに、適切に維持・管理を行い安全と安心を確保するため、平成26年3月に富士市公共建築物保全計画（以下、「保全計画」という。）を、平成27年4月には富士市公共施設マネジメント基本方針（以下、「基本方針」という。）を策定した。</p> <p>そして、一般公共建築物については、中長期的な視点から大規模修繕や更新時期を捉えて再編を進めていき、基本方針に掲げる目標を具現化するため、2016年度から2055年度までの40年間を見据えて、再編の手法や留意すべきポイントなどを定めた富士市公共施設再編計画（以下、「再編計画」という。）を平成28年9月に策定した。</p> <p>現在、保全計画、基本方針並びに再編計画等に基づき、公共建築物の保有量の削減、ライフサイクルコストの削減、効果的な利活用などが進められているところである。</p> <p>そのうち、公共建築物の効果的な利活用については、地域経済の活性化、雇用の創出、まちの魅力創出、市民サービスの向上などにつなげていけるように、幅広い視点から検討する必要があるのではないかと考え、以下を質問する。</p> <p>(1) 再編により生じる余剰公共建築物については、単に保有量の削減ということだけではなく、民間のアイデアを取り入れてリノベーションし、民間主導で維持管理・運営を行うという手法などを取り入れ、多様な利活用を進めるということも必要であると考えがいかがか。</p> <p>(2) 公共建築物（用地）の利活用という観点から、富士市緑の基本計画（第二次）に示されている施策を取り上げて伺う。</p> <p>① 基本施策として「公園配置の検証と見直し」が掲げられ、主な取り組みには、都市計画公園の見直しガイドラインの策定、都市公園の整備プログラムの策定が示されているが、その進捗状況はいかがか。</p> <p>② 未着手で明らかに整備が困難な都市計画公園については廃止し、代替として再編（廃止等）の対象となる公共建築物用地を公園として位置づけ、利活用・再整備していくということは考えられないか。</p> <p>(3) 再編によって廃止が決まっている公共建築物については、それぞれ今後どのように対処していくのか。</p> <p>2. 紙のまち富士市としてのさらなるイメージ構築とPRに向けての取り組みについて</p> <p>本市は、豊富な地下水に恵まれ、明治期以降、近代製紙産業の一大集積地となり、全国有数の紙のまちとして発展してきたが、バブル経済の崩壊後の景気後退、人口減少やICT</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	佐野 智昭（6）	<p>の進展による紙需要の減少、生産拠点の海外移転などによって、パルプ・紙等の製造品出荷額は平成3年をピークに大幅に減少している。</p> <p>しかし、そうした厳しい状況下にあっても、官民が一体となって、地場産業としての紙・パルプ産業の振興はもとより、紙のまち富士市としての発信などについて努力を重ねてきているところであり、新たな可能性も出てきている。</p> <p>富士地域再生家庭紙利用促進協議会においては、再生家庭紙需要の促進や紙の円滑なリサイクルシステムの確立を目的に各種取り組みが行われており、その1つの成果として、地元メーカーの協力を得て富士市統一のブランド製品である「ふじのかみ」が製品化されている。また、各企業においては、技術革新や独自のアイデアによる新製品の開発も進められている。</p> <p>一方、パルプの原料となる木材チップなどから生み出される新素材「セルロースナノファイバー（CNF）」の実用化に向けての取り組みも本格化してきており、製紙業界においても成長の起爆剤となり得る存在として注目されているところである。さらには、プラスチック製品による深刻な海洋汚染が問題となっている中で、代替素材として紙が注目され、紙製品の新たな市場開拓の可能性も高まっている。</p> <p>そして、紙のまち富士市の発信に関する取り組みについては、隔年開催となったが、富士山紙フェア、ものづくり力交流フェアにおいて、紙の魅力や紙におけるものづくりについての発信がなされ、一定の成果が得られているところである。また、本市のふるさと納税の返礼品については、トイレットペーパーやティッシュペーパーなどの紙製品が人気であり、全国の消費者に対し、紙のまち富士市のイメージを浸透する役割も担っている。</p> <p>さらには、製紙工場の夜景をPRし、まちの歴史に光を当てることで、まち自体への注目を高めようという工場夜景都市としての動きも活発になってきている。また、製紙工場の中には、工場見学を受け入れている企業もあり、回収された古紙がトイレットペーパー等にリサイクルされる過程などを見学することができる。</p> <p>文化面においても、紙のまち富士市を発信するため、ふじ・紙のアートミュージアムが開設され、紙を素材とした芸術作品の展示が行われている。また、紙の手芸品・工芸品等の開発や紙にスポットを当てて活動する企業や市民団体も見られる。</p> <p>富士市議会においては、再生紙を初めとする地元製品の活用を大いに啓発するとともに、災害時における紙に関するあらゆる備えに万全を期すなど「日本一の紙のまち・富士市」に向け、そのすぐれた功績を市民と共有し、全国に発信していくとして、決議している。</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	佐野 智昭（6）	<p>こうした取り組み・活動などについては、成果があらわれているものが多くある一方で、途上にあるもの、課題が浮き彫りになっているもの、新たな一歩が必要になっているものなどさまざまな状況にあり、さらには紙を取り巻く社会経済情勢の変化や新たな紙への注目度の高まりなどがある中で、本市が紙のまちとして今後どう取り組んでいくのか、改めて考える時期に来ているように感じる。</p> <p>私としては、紙は本市の強みの1つであると捉え、紙・パルプ産業の振興はもちろん、紙のまち富士市としてのさらなるイメージ構築とPRのため、地域経済の活性化、まちの魅力創出、市民の紙に対する誇りの醸成などに結びつく各種取り組み等を官民一体となって推進していくことが必要であると考え、その一環として以下の3点について提案するものであり、その対応について当局の見解を伺う。</p> <p>(1) 富士市の紙に関するポータルサイトを構築し、多様で多面的な情報を発信するために、富士市ウェブサイトの富士じかんに、紙のまち富士市のページを追加する、もしくは既存の紙のまち富士市のページを拡充・イメージチェンジしたらどうか。</p> <p>(2) 製紙関連企業、関係団体・組織等との連携のもと、紙に関する資源の掘り起こしや創出を図りつつ、工場見学やふじ・紙のアートミュージアム、富士山かぐや姫ミュージアム・歴史民俗資料館、紙にまつわる場所、紙製品や紙に関する工芸品・手芸品等の販売店、芸術・ペーパークラフト・手芸体験の場などをめぐる「紙のまちツーリズム」を企画・推進し、体験型の産業観光を振興したらどうか。</p> <p>(3) 再編による余剰公共建築物を活用して、民間主導の公民連携により、紙に関する情報発信・学習の場、紙に関する製品等の販売、紙を使つてのアートや手芸体験の場などの多様な機能を持たせた、紙のまち富士市をPRする拠点施設を設けたらどうか。</p>	市長 及び 担当部長